

キリシタン迫害により、フィリピンへ国外追放されたことを知りました。同大会で日本の文化庁長官三浦朱門氏は、講演の中で、高山右近は日本の一偉人であると話されました。その右近の像が、建築中のフィリピン・ロータリーセンターのあるバコ国営鉄道の駅ビルの前のプラザ・デイラオ広場に建っているのであります。その第二五九地区の地区大会に出席してから、ベントラ・ガバナーがこのことに非常な興味を示し次の事柄が新たに分かりました。

へ。ポト・バレド。

右近像と日比親善

一九八五年九月二五九地区の地区大会に上野良一ガバナーの招待で、フィリピン三八一地区サニー・ベントラ・ガバナーが出席しました。その大会で、初めてキリシタン大名高山右近が

ラブを通じ、高山右近像が制作され、大会々場となった市民会館前に建てられたということでした。この像の制作にあたった彫刻家西森正昭氏は高槻クラブのメンバーであることも知りませんでした。一九七二年三月マニラ市環境美化婦人会のベネディクト会長（駐日大使夫人）をはじめ、有力な婦人指導者がこの像に敬意を表し、高槻市を訪問したのち、マニラ市長に対し、世界的に有名な高山右近像を、デイラオ広場に建てることは日比親善のかけ橋になる、と提案したのであります。一方、高槻市は高槻クラブに協力を求め、同クラブで建立募金活動など進めることを理事会が決定、現在デイラオ広場に西森氏制作の右近像が建っています。ベントラ・ガバナーとロータリー建築委員会では、今後デイラオ広場をマニラ市から譲り受け、日本・比国親善公園として両国のロータリークラブの組織の力で運営ができないものかと話し合っており、マニラ市とも交渉が進められています。

大阪府高槻に居城をもっていた高山右近大名は、キリシタン迫害によりフィリピンへ国外追放となり、彼の家族全員と一部の信者とともにマニラを訪れ、マニラ市の近郊でそのゆかりの地である旧日本人居留地バコ駅前のデイラオ広場へ住みつくようになりました。右近一行が、住むようになってから、ここをデイラオ広場とスペインの当時の神父であるサンフェルナンド・デイラオの名が命名されました。このデイラオとは黄色という意味で黄色人種集団を表わしています。右近大名は、この地で発展をとげた後に、デイラオでその一生を終えます。現在いわれていることは、右近と一緒にいた信者たちは、当時のフィリピン人およびスペイン人、中国人や、その他の国籍の人々と結ばれたそうであります。「ロータリーの友事務所」からも、次の事項について知らされました。

それは、一九七二―七三年第三六六地区年次大会を記念して、地区会員の募金により高槻ク

右近像の建つデイラオ広場の反対側に建築中のフィリピン・ロータリーセンターには、恵まれない人のための無料診療所、歯科、学校へ行けない子どもたちの特殊技術訓練およびセミナー、国内のインターアクト、ロータリーアクトの本部もおかれることになっています。また同センターは、国内国外のロータリークラブにも利用してもらう事務所のスペースや、モダンな会議室、そして食事、スナックのための厨房設備もあるため、クラブレベルの集会、宴会ができ

ます。友情のホールでは文庫にある書物やロータリーコレクションなどが楽しむことができます。現在、この建物の工事は着々と進んでおりこの建築費は国内を初め、外国のロータリアンの心温まる資金援助によりおこなわれております。右近像の保存および公園管理については、この反対側が建築中のロータリーセンターであるため、さほど問題はないと思われます。

しかし、このロータリーセンターの建築については、フィリピンの国内経済事情の悪化および資金調達難のため、二、〇〇〇、〇〇〇ペソ（日本円で三千万円）の工費が見込まれ、皆さま方の援助およびロータリアンの温かいご厚意をお待ちいたします。

なぜならば、マニラの地に建つものはありますがこのフィリピン・ロータリーセンターは、皆さんがたロータリアンのものですから。

（フィリピン・ロータリー雑誌

編集長

